

第4章 都市の骨格構造

4.1 奥州市の広域的な位置づけ

4.2 都市の骨格構造

4.3 拠点とネットワーク

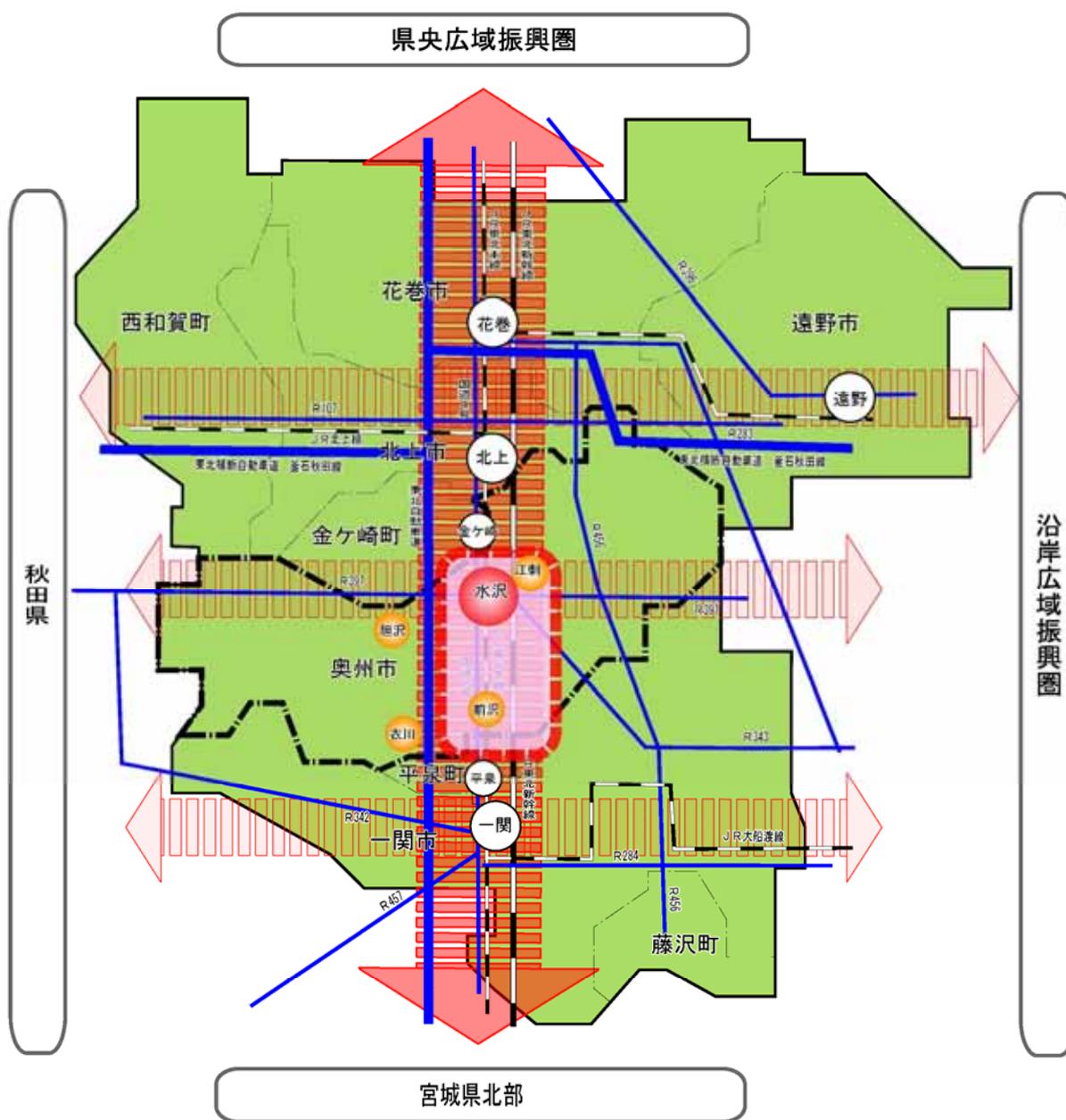
第4章 都市の骨格構造

4.1 奥州市の広域的な位置づけ

本市をはじめとして、県南広域振興圏の各都市は、東北自動車道、国道4号、JR東北新幹線、JR東北本線を軸に発展しており、この軸上に市街地が形成されています。

県南地域のほぼ中央に位置する本市は、他都市との連携を図りながら、県南地域の中心都市、また、副県都としての発展を目指します。

広域的な都市構造概念図



4.2 都市の骨格構造

都市の骨格構造を、土地利用現況、土地利用規制、地形条件、道路交通網等を総合的に判断し、ゾーン及び連携軸により形成することとします。

(1) ゾーン

計画的な土地利用を実現するため、土地利用現況や地形等を踏まえ、市域を「都市・田園ゾーン」「ふるさと田園ゾーン」「自然環境保全ゾーン」に区分します。

このゾーン区分に基づき、それぞれの特性に応じた適切な土地利用の規制・誘導や都市基盤の整備等を進めます。

ゾーンの基本的な考え方

区分	基本的な考え方
都市・田園ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川周辺の平坦低地部を中心とする田園地帯の中に、市街地やまとまりのある農村集落が点在する範囲を「都市・田園ゾーン」と位置づけます。 ・優良な農地を保全し、都市広域連携軸に沿ってコンパクトな市街地の形成を図ります。 ・市街地では、都市機能の集約・充実を図り、市民の暮らしや産業をサポートするとともに、良好な住宅・宅地の供給や交流の場の充実を図ります。市街地周辺の田園地帯は、農地の保全を図るとともに、農村集落の生活環境の維持・向上を図ります。
ふるさと田園ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・田園ゾーン外側の農地や里山が広がる範囲を「ふるさと田園ゾーン」と位置づけます。 ・優良な農地の保全、農村集落の生活環境の維持・向上、里山の保全・活用を図るとともに、散居集落、棚田等の本市独自の農村環境・景観の保全を図ります。 ・豊かな自然環境と空き家、遊休農地を活用し、田園居住や二地域居住を促進するとともに、グリーン・ツーリズム等の都市住民との交流の場の充実を図ります。
自然環境保全ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・西部に広がる森林地域を「自然環境保全ゾーン」と位置づけます。 ・豊かな自然環境・景観を保全するとともに、グリーン・ツーリズムや各種レクリエーション活動等の自然とのふれあいの場の充実を図ります。

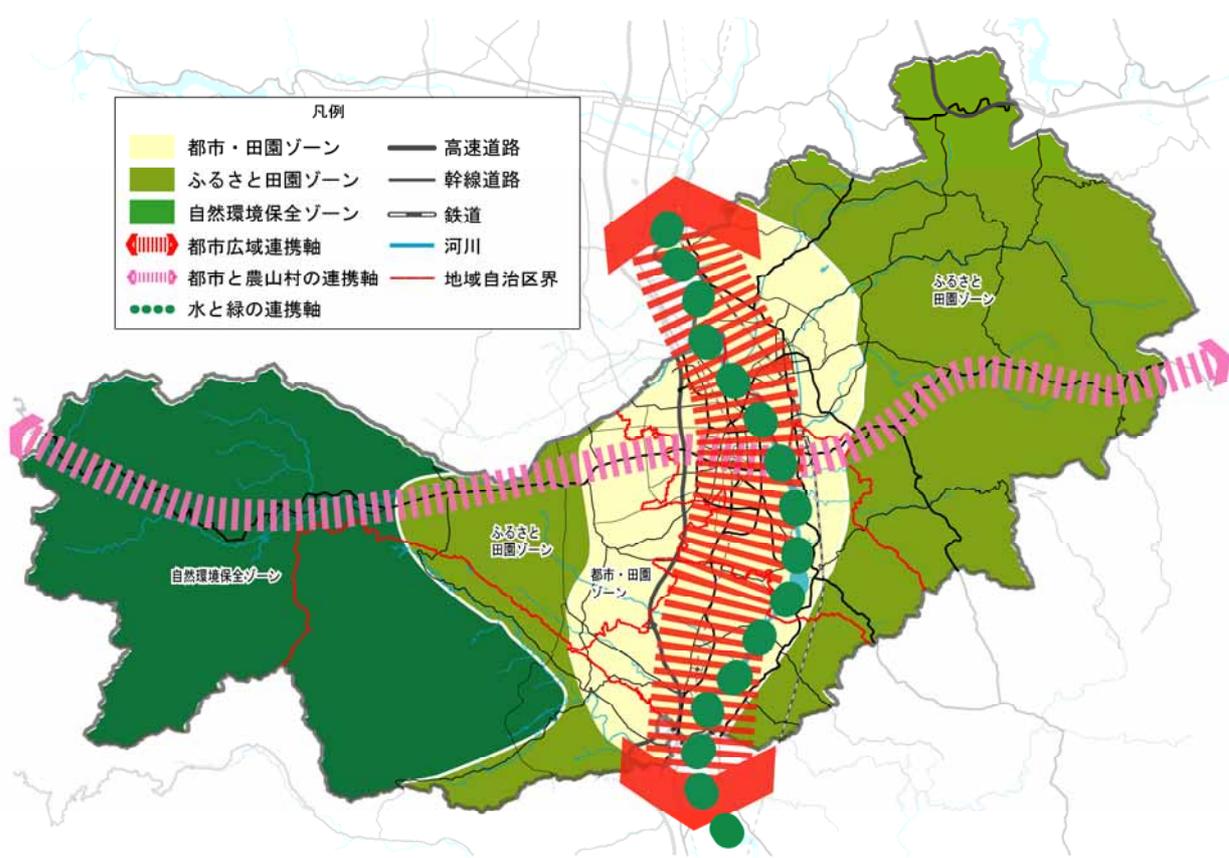
(2) 連携軸

都市の一体性、隣接市町村との連携を強化し、人・もの・情報の交流の活性化を図るため、道路交通網や河川の状況等を踏まえ、「都市広域連携軸」「都市と農山村の連携軸」「水と緑の連携軸」を位置づけます。

連携軸の基本的な考え方

区分	基本的な考え方
都市広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・東北自動車道、国道4号、JR東北新幹線、JR東北本線に沿って「都市広域連携軸」と位置づけます。 ・この軸は、本市と近隣都市をつなぎ、商業、工業、流通等の産業振興に重要な役割を果たします。 ・この軸を中心に、金ヶ崎町、平泉町、北上市、一関市等の都市との連携強化を図るとともに、賑わいのある市街地形成を図ります。
都市と農山村の連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・国道397号を「都市と農山村の連携軸」と位置づけます。 ・この軸は、都市・田園ゾーン、ふるさと田園ゾーン、自然環境保全ゾーンを貫き、都市と農山村との連携の強化、農林業や観光産業の振興、自然とのふれあいに重要な役割を果たします。 ・本県沿岸地域や秋田県との広域的な連携強化や北上川や鉄道等で分断されている市街地の連携強化を図るうえでも重要な軸であり、この軸を中心に道路交通網の充実等を図ります。
水と緑の連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・市域中央を流れる北上川を「水と緑の連携軸」と位置づけます。 ・北上川沿いの豊かな自然環境・景観を保全するとともに、都市に潤いを与える空間として活用します。

都市の骨格構造図



4.3 拠点とネットワーク

まちづくりを先導していく地域を拠点として位置づけ、適切な機能分担のもと、機能強化や環境整備を進めるとともに、拠点間を連絡するネットワークの充実を図ります。

(1) 拠点

水沢駅周辺、江刺総合支所周辺、前沢駅周辺及び水沢江刺駅周辺を「都市拠点」として、胆沢総合支所周辺と衣川総合支所周辺を「地域拠点」として位置づけます。

工業団地及び流通団地等を「産業拠点」として、鉄道駅やインターチェンジを「広域アクセス拠点」として位置づけます。

北上川東部丘陵地域の水沢ふれあいの丘周辺を北上高地の資源を活かした研究施設等の設置の可能性も視野に入れた「学術・文化拠点」として位置づけます。

多くの観光客等が訪れるエリアを「観光拠点」として位置づけます。

拠点の位置づけ

拠点		基本的な考え方
都市拠点	水沢駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> 水沢駅周辺は、商業・業務、行政、学術・文化、医療・福祉等の多種多様な都市機能の集積を踏まえ、副県都の形成を牽引する「中心的な都市拠点」として位置づけます。 恵まれた交通条件を活かし、各種都市機能の強化・充実を図ります。 行政施設、商店街、歴史・文化資源等が多い駅西側と文化施設等が多い駅東側は、それぞれの特性を活かし賑わいを創出するとともに、相互の連携を強化し、副県都としての中心性を高めていきます。
	江刺総合支所周辺	<ul style="list-style-type: none"> 江刺総合支所周辺は、商業・業務、行政、文化等の都市機能の集積を踏まえ、「北東部地域の都市拠点」として位置づけます。 隣接するえさし藤原の郷との連携強化を図りながら、蔵をはじめとした多様な歴史・文化資源を活かし、観光・商業機能等の充実を図ります。
	前沢駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> 前沢駅周辺は、商業・業務、行政、文化等の都市機能の集積を踏まえ、「南部地域の都市拠点」として位置づけます。 駅西側の既存商店街と駅東側の大規模商業施設や行政、文化施設等が相互に連携して、機能の強化・充実と賑わいの創出を図ります。
	水沢江刺駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> 水沢江刺駅周辺は、首都圏からの観光客を迎え入れる玄関口（観光交流の基点）また各市街地を結ぶ機能を踏まえ、「都市拠点」として位置づけます。 交通結節機能、観光交流機能等の強化・充実を図ります。
地域拠点		<ul style="list-style-type: none"> 胆沢総合支所周辺と衣川総合支所周辺は、公共公益施設等の集積を踏まえ、「地域拠点」として位置づけます。 地域住民の暮らしを支えるため、行政、文化機能を中心に、近隣サービス機能、医療・福祉機能等の強化・充実を図ります。
産業拠点		<ul style="list-style-type: none"> 本市の産業を牽引する工業団地、流通団地のほか、工業集積地を「産業拠点」として位置づけるとともに、工場立地適地調査の結果を踏まえた新たな産業拠点の整備を進めます。 工業生産機能、流通業務機能の強化・充実を図ります。
広域アクセス拠点		<ul style="list-style-type: none"> 水沢江刺駅及び高速道路のインターチェンジ（水沢、平泉前沢、（仮称）江刺田瀬）を「広域アクセス拠点」として位置づけます。 他の拠点との連絡性の強化を図るとともに、市の玄関口（顔）にふさわしい環境と景観づくりを進めます。

拠点	基本的な考え方
学術・文化拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川東部丘陵地域の水沢ふれあいの丘周辺を「学術・文化拠点」として位置づけます。 ・豊かな自然環境との調和に配慮し、科学学術研究機能や教育機能の立地を誘導します。
観光拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然資源、歴史・文化資源等があり、多くの観光客等が訪れる場所を「観光拠点」として位置づけます。 ・各種資源の保全・活用、環境や景観の整備を進めるとともに、他の拠点との連携を強化し、魅力の向上を図ります。

(2) ネットワーク

都市の一体性の強化と回遊性の向上を図るため、拠点間を結ぶ「環状」と、拠点と他都市とを結ぶ「放射状」のネットワークの形成を進めます。

このネットワークに沿って、道路交通ネットワークや観光周遊ネットワークの充実を図ります。

拠点とネットワーク配置方針図

